

# JSiSE 学会誌論文テンプレート

著者 1\*          著者 2\*          著者 3\*\*

Paper Template for Transactions of JSiSE

Author1\*          Author2\*          Author3\*\*

This paper describes paper template for Transactions of JSiSE. Authors are required to use this template to prepare their paper to be submitted to JSiSE journal.

キーワード： テンプレート, 学会誌, 執筆要領

## 1. はじめに

この文書は教育システム情報学会（JSiSE）の学会誌に投稿する研究論文および解説のためのテンプレートである。論文投稿や解説寄稿に際しては、本テンプレートをを用いて原稿を執筆されたい。

## 2. 論文の構成

原稿の構成は、表題、著者名、概要、キーワード、本文、参考文献、付録、著者紹介の順序とする。ただし、ショートノート、実践速報では概要およびキーワード、著者紹介は不要とする。また、謝辞を付す場合は、本文の後に参考文献リストの前に挿入すること。

### 2.1 表題

日英両方で書く。副題を付与したい場合は長ダッシュで前後囲むこと。

### 2.2 著者名

日英両方で書く。著者毎に上付きの記号\*で対応させた所属名称を1ページ目下部の罫線下に日英両方で全段に跨って書く。本テンプレートの通り、同欄には受付日の行があるが、出版社側で日付補完するため、消さずに残しておくこと。

### 2.3 概要・キーワード

一般論文、実践論文、解説には、論文の概要(Abstract)を英文150ワード以内でつける。また、その下に“キーワード：”につづけてキーワードを5つ程度書く。

## 3. 見出し

本文に、章・節・項、等の見出しをつけて読み易くする。各レベルに応じた見出しの番号付けには表1の体裁を用いること。

本テンプレートのスタイルには、項までの書式が設定されているためそれらを利用されたい。

\* ○○大学××学部 (Faculty of XX, OO University)

\*\* ▲▲株式会社△△研究所 (△△ Laboratory, ▲▲ Inc.)

受付日：YYYY年MM月DD日

表 1 見出しの体裁

体裁	レベル
1.	第 1 章
1.1	第 1 章第 1 節
1.1.1	第 1 章第 1 節第 1 項
(1)	細別項目の第 1 段
(a)	細別項目の第 2 段
①	細別項目の第 3 段

#### 4. 参考文献

記述内容に直接関連のある文献は、主文中における該当箇所の肩（上付き）の（ ）内に番号を示す。以下に書籍と雑誌の場合の記載例を示す。

##### 本文内の記載例

数学教育において e ラーニングが有効であることが知られている<sup>①</sup>。

##### 参考文献の記載例

- (1) 山田太郎, 鈴木花子, 中村二郎: “数学教育用 e ラーニングの実現”, 教育システム情報学会誌, Vol. 51, No. 11, pp. 1021-1028 (2021)
- (2) 佐藤一郎, 高橋千代: “知的 CAI システム”, 日本教育情報出版社, 東京 (1995)
- (3) Palmer, A. D. and Ryan, N.: “Learning Process and Learning Management Systems”, McGraw Hill, New York (1975)
- (4) 教育システム情報学会: “学会誌投稿のご案内”, <http://www.jsise.org/journal/subguide.html> (参照 2013.12.31)

外国参考文献の場合、英文の書誌情報での書き方は次のとおりである。

単行本、テクニカルレポート等のタイトルは keyword の最初の文字を大文字で書き、雑誌に記載された論文名は最初の文字だけ大文字にする。また、タ

イトルはダブルクォーテーションマーク “ ” で囲む。英文著者名は姓を先に書き、4 名以上のときは、3 名までを書き、他は et al. とする。

参考文献の文字サイズ・行間はこのテンプレートに設定されている値（文字サイズ 9 ポイント・行間 1 行空き）とすること。

#### 5. 付録

長い数式の誘導、装置、計算機についての説明などの本質的な論旨に対し、読者が論文内容を応用する上で参考とできる詳細な記述が必要なときは、付録にした方がよい。

#### 6. 図表

図はそのまま印刷されるので、明瞭に書く。解像度などに注意し、ラスターイメージ等を用いる場合には、ジャギーの有無を確認の上、鮮明な画像を用いること。図および表は、論文全体を通じてそれぞれ通し番号をつけ、図のタイトルは下欄に、表のタイトルは上欄に表示する。図表のタイトルと図表自体の間隔はこのテンプレートの図表タイトルに設定されている値 (3 mm) とし、図表とそのタイトルが同一ページになるよう調整すること。また、表がページ間を跨らないように調整すること。写真は図として扱い白黒のものを原則とする。全ての図表は、本文内で適切に参照されなければならない。そのため、参照順を考慮の上、可能な限り、本文内で参照している章・節の中あるいはそれに近いところに配置される方が望ましい。

図表の大きさは、刷り上がり (B5 版) で、片段 (幅 7cm) または全段 (幅 14.5cm) とし、段幅からはみ出ることのないように調整すること。図表内の文字のポイントは刷り上がりで 6~7 ポイントまでを原則とする。これより小さな文字の使用は受け付けられない。本テンプレートを用いた場合、刷り上がりでは約 86% の大きさに縮小されるので、十分に大きな文字を用いなくてはならない。目安として 7~8 ポイント以上の文字を用いる。表中の文字と罫線の間隔はこのテンプレートの表に設定されている値 (1.9 mm) とすること。

表2 表の例

項目 1	項目 2	項目 3	項目 4
値 11	10 ポイント	値 13	値 14
値 21	9 ポイント	値 23	値 24
値 31	8 ポイント	値 33	値 34
値 41	7 ポイント	値 43	値 44



図1 図の例

## 7. 記号類

「＝<」などの記号類は、印刷時に全角文字を使用するので、原稿でも全角とすること。

## 8. 刷り上がりイメージの制限枚数

原稿はA4判を使用し、横24字、縦41行×2段組みの書式で、刷り上がりイメージにできるだけ近い状態で投稿のこと。刷り上りページ数の上限の原則は、図表、著者紹介を含めて表3のとおりとする。なお、本テンプレートをを用いた場合でも、刷り上がりにおける図表などの調整によりページ数にズレが生じる可能性もあるため、執筆時には考慮されたい。ショートノート・実践速報では、刷り上がり7ページ以上になると掲載されないの注意すること。

表3 ページ数の上限の原則

論文種別	刷り上がりページ数
一般論文	8ページ以内
実践論文	8ページ以内
ショートノート	4ページ以内. 最長6ページ (7ページ以上のものは掲載しない)
実践速報	4ページ以内. 最長6ページ (7ページ以上のものは掲載しない)
解説	8ページ以内
国際会議報告	1ページ以内
世界の窓	1ページ以内
研究プロジェクト紹介	1ページ以内

## 9. その他

文体は、“…である”調とし、学術用語は文部科学省の規定があればそれに従うこと。外国名は外国綴りのままとし、ブロック書きで書く。

## 10.カバーレター

本テンプレートに続くカバーレターに必要事項を記入し、論文と同じファイルに含めて投稿すること。なお、解説記事の場合は不要である。

## 11.投稿方法・問い合わせ先など

以下の電子投稿システムから投稿する。

[https://iap-jp.org/jsise/journal\\_3/](https://iap-jp.org/jsise/journal_3/)

紙媒体による投稿は受け付けない。電子投稿に関する問い合わせ先は、以下の編集事務局である。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町332-6

パブリッシングセンター (株) 国際文献社内  
教育システム情報学会 編集事務局

TEL: 03-6824-9363 FAX: 03-5206-5332

メールアドレス: jsise-edit@bunken.co.jp

### 参考文献

- (1) 教育システム情報学会: “学会誌原稿執筆要領”,  
<http://www.jsise.org/journal/guideline.html> (参照  
2024.6.17)

### 著者紹介

写真

刷り上がり 2.7×

3.3cm

(著者本人の無加工の  
写真画像を用いること)

著者 1

19xx 年 ○○大学△△学部卒.

19xx 年 同大学大学院博士後期

課程了. 工学博士. 20xx 年より,

××大学准教授. 現在に至る. □

□の研究開発に従事. 20xx 年教

育システム情報学会論文賞受賞.

▽▽学会, ■■学会, ◎◎学会各会員.

## 教育システム情報学会 学会誌カバーレター

2024/6 改訂

教育システム情報学会 学会誌に論文を投稿する際には、本カバーレターを添付してください。※は必須項目です。なお、一度「返戻」と判定された論文を修正して再投稿される際は、再投稿時のお願い（<https://www.jsise.org/wp-content/uploads/2022/08/repost.pdf>）をご確認いただいたうえで項目(10)にご記入ください。

- (1) 論文タイトル※：
- (2) 著者名・所属※：
- (3) 論文カテゴリ※： 一般論文 ・ 実践論文 ・ ショートノート ・ 実践速報（いずれかを残す）

### フルペーパー（一般論文または実践論文）を投稿される方へ

フルペーパーとしては返戻と判定する場合も、ショートノートまたは実践速報に種別変更することで条件付き採録と判定することがあります。(a)フルペーパーでの判定のみを希望されるか、(b)ショートペーパーでの判定も希望されるか、以下のいずれかに必ずチェックをいれてください。

(a)フルペーパーでの判定のみを希望する：フルペーパーで返戻の場合には、ショートノートまたは実践速報での掲載(条件付き採録)を希望しない。

(b)フルペーパーでの判定以外も希望する：フルペーパーで返戻の場合には、ショートノートまたは実践速報での掲載(条件付き採録)を希望する。

※ (a)の場合は、フルペーパーでの採否のみ審議されるので、査読結果をお返しするまでの期間短縮が見込まれます。(b)に希望された場合でも、初稿時点で標準ページ数を大幅に超えた投稿などはショートペーパーへの修正自体が大幅な改修となりえるため、そのような状況下ではカテゴリ変更での条件付き採録判定が行われないこともあります。

- (4) 論文の要約と論文の意義：特に、投稿論文で設定されたリサーチクエスチョンおよび学会誌原稿執筆要領の「2.学会誌原稿の種別」における「3.研究論文の評価観点」に記載の新規性、有用性、信頼性の観点に照らした論文の主張点。この項目の記入は任意ですが、**査読判定時に参考にしますので、記入されることを強く推奨**します。
- (5) 投稿論文に関連する受賞がありましたらお書きください（任意）
- (6) 論文書式の確認※：(a)～(e)のいずれかが「いいえ」の場合、投稿できません  
(a) 1 ページ横 24 字、縦 41 行×2 段組みの書式である はい・いいえ

- |                               |              |
|-------------------------------|--------------|
| (b) 一般論文・実践論文の場合、12ページ以内である   | はい・いいえ・理由書添付 |
| (c) ショートノート・実践速報の場合、6ページ以内である | はい・いいえ       |
| (d) 図表内の文字サイズは7ポイント以上である      | はい・いいえ       |
| (e) その他、学会誌原稿執筆要領の書式指定を順守している | はい・いいえ       |
| (f) カラー印刷の希望                  | あり・なし・該当しない  |

著者最終稿に対して、刷り上がり時には図表などの調整によりページ数が変わる場合がありますが、費用は刷り上がりページ数となります。また、ショートペーパーでは7ページ以上は掲載されません。

(7) 倫理的事項の確認※：「いいえ」の場合、投稿できません

実験等における被験者・学習者の人権的配慮がなされている はい・いいえ・非該当

注) 所属組織の倫理規定に従っている場合は、その旨を論文に記載していただければ結構です。

論文刊行における研究倫理・社会通念上の問題はない はい・いいえ

著者全員が投稿前に投稿論文の全ての内容を確認した はい・いいえ

(8) 二重投稿に関する事項の確認※：いずれかが「いいえ」の場合、投稿できません

(a) 学会誌原稿執筆要領4の2)3)記載の二重投稿の定義を確認した はい・いいえ

① 投稿原稿に関連する既発表論文を原稿内で適切に引用している はい・いいえ

② 投稿原稿に関連する投稿中・印刷中の論文がある はい・いいえ

「はい」の場合、投稿中・印刷中の論文の書誌情報を以下に記入するとともに、当該論文を電子投稿システムの「添付資料」として提出してください。なお、投稿中の論文について投稿先のジャーナル名を記す必要は必ずしもありません。

(b) (a)の定義に該当しないことを著者全員が確認した はい・いいえ・判断できない

※二重投稿に該当しないことの判断に迷う場合は、査読プロセスに入る前にご相談ください。

以下に懸念される内容をご記入頂き、論文投稿時に関連論文を事務局にメールでお送りください。

(9) 利益相反に関する事項の開示※

(a) 利益相反に関する事項はない はい・いいえ

(b) 上記が「いいえ」の場合、その内容

注) 利益相反に該当する事例としては、研究の対象が補助金や謝礼を受け取っている企業の製品の機能である場合など、論文に関連する利害関係が挙げられます。このような場合は、利益相反に該当しますので、補助金や謝礼を受け取っている旨を以下に記載してください、ただし、これによって論文が投稿できなくなるわけではありません。

(10)再投稿に際してのコメント (<https://www.jsise.org/wp-content/uploads/2022/08/repost.pdf> をご覧ください)